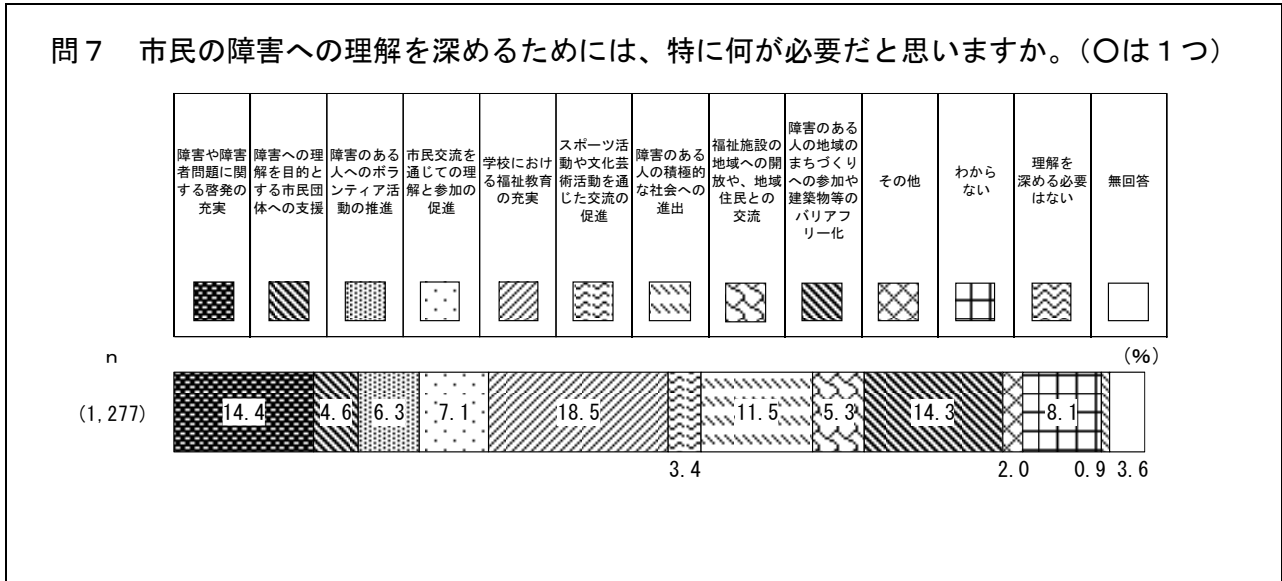


(2) 市民の障害への理解に必要なこと



市民の障害への理解を深めるために、特に何が重要だと思うかたずねたところ、「学校における福祉教育の充実」(18.5%)が最も高く、2割近くとなっている。次いで、「障害や障害者問題に関する啓発の充実」(14.4%)、「障害のある人の地域のまちづくりへの参加や建築物等のバリアフリー化」(14.3%)、「障害のある人の積極的な社会への進出」(11.5%)と続いている。また、「理解を深める必要はない」(0.9%)はごく僅かとなっている。

<性別・性／年齢別・区別結果>

性別でみると、「障害や障害者問題に関する啓発の充実」は男性が女性より6.9ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「学校における福祉教育の充実」は男性30歳未満が最も高く、3割半ばとなっている。一方、「わからない」は女性70歳以上が最も高く1割を超えている。

区別でみると、「障害のある人の地域のまちづくりへの参加や建築物等のバリアフリー化」「障害のある人の積極的な社会への進出」は南区が最も高く、1割半ばとなっている。

